

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズステーション蒼組			
○保護者評価実施期間	2026年 5月 20日		～	2026年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2026年 5月 20日		～	2026年 5月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・高齢者のデイサービスが併設されていることで、世代間交流を通じて、相互に支えあうことができ、成長していく過程で、いろいろな価値観に触れ、自己を確立していく糧を得ることができる。	・高齢者と一緒に活動する場面を意図的に設定し、その時に、相手を支える経験を積んで、自己有用感を高める。 ・複数で行う活動において、自己の長所や短所を知り、それを謙虚に受け入れ、助けが必要な場合に、協力を求めることができ、きちんと感謝できる。	・事業所の中にとどまらず、近隣住民や行政にも協力を仰ぎ、多様な経験ができる場と機会を設けていく。
2	・さまざまな活動の中で、相手の話に耳を傾けることや、自分の気持ちを伝えることで、日常生活を営む上で、不可欠なスキルを習得（SST）を行うことができる。	・特別な場を作り、イメージさせるのではなく、事業所で過ごしている時間に、自然と直面することがある状況が起きたとき、その時におしゃべり（会話）をしながら、多面的なとらえ方があることを体感させる。	・高齢者と児童だけでなく、その間の世代の人たちとも関われる場を作っていく。
3	・重心の児童を受け入れることができおり、児童の多様な状況を受け止め、対応できる職員とマインドを持っている。	・できない理由を考えるのではなく、できることは何か、そのために、どのような準備をするかを共有化している。 ・利用している児童が、自分の子だったら、親として、家族として、どのようにして欲しいかを、引き寄せて考えている。	・利用している児童だけでなく、困り感を持って、悩んでいる児童のケースを検討していく。支援者、保護者、社会人としてなど、さまざまな立場の視点で考え、児童や保護者の気持ちに寄り添っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・学習支援等の教育的なプログラムの優先度を高くしていない。	・家庭のニーズが、学習にある場合、利用することを検討してもらえない。	・スタッフだけが、学習サポートをするのではなく、高齢者や年長児童も援助資源の1人と考え、準備していく。
2	・高齢者との共生がコンセプトになっているため、一緒に行う活動は、静的なものばかりで、動的な活動は個別で設定していくことになる。	・多動等の特性を持っている児童のエネルギーを発散させる機会や、長所を発揮できる場が提供できていない。	・高齢者と一緒に、外出する際、現地までの移動のサポートに関わらせることで、自己肯定感を高め、現地では見守りの中で運動を行い、評価されることで、自信を持つきっかけとする。
3	・共生型デイサービスではあるが、想定している理想と現実ギャップがある。	・日常的な利用時間がずれており、交流して、刺激をしい、高めていく機会が少ない。	・土曜日や長期休みの利用の際に、効果的な関わりを持てるよう、日常の活動の中で準備していく。